栃木小松フォークリフト(株)

代表取締役社長
黒須（くろす） 進一（しんいち） 氏

創業53年を迎える、コマツブランドのフォークリフトを含む物流機器および、小型車両系建設機械を販売する正規ディーラー。近年、カーボンニュートラルや環境保全などへの意識が高まり、フォークリフトもガソリンやディーゼルのエンジン車から、バッテリー車への切り替え需要が高まっている。「もともと屋内で使用するフォークリフトは、排気ガスを出さないバッテリー車が主流でしたが、さらに勢いが増しました」。バッテリー車は風雨や悪路に弱く、屋外での使用には適さないが、コマツは8年前に屋外仕様でオールラウンドのフォークリフトの販売を開始。さらに昨年新型にモデルチェンジした。急速充電で長時間使用が可能になり、エンジン並みの稼働率を実現。環境性、経済性、安全性を網羅した商品だ。

無人搬送台車の販売強化

会社の位置付けは物流サービス専門商社と考え、販売領域拡大を目指して独自の事業もいくつか展開している。工場や製造現場で使用されている動力コンプレッサーの販売事業では、顧客の現状を把握し、電力などの削減効果比較や投資対効果判断を提示して、最適な製品を提案しながら消費電力量や電気代を削減し、全体省エネに導く。物流ロボットと無人搬送台車販売、特に後者は新年度最も積極的に挑む。荷物が水平移動できるフロアの条件が整っていれば中小企業でも小規模プランから導入が可能で、人手不足解消に一役も二役も買う「小さな無人化」を推進。「コロナ禍で県内の経済も疲弊しています。当社の機械が問題解決や、物流業界の効率化、省エネ化の手助けになればと考えています」

小山市にコマツブランドのマザー工場があることは、県内でもあまり知られていない。国内や海外に流通するコマツ製のフォークリフトはすべて、ここで生産される。「製造のお膝元に拠点を置く身として、県内企業の皆さまに存在を知っていただくとともに、一層コマツブランドを広めていきたい」と信念を語った。

花咲グループ

KOMATSU

〒321-0911　宇都宮市問屋町3172-36
☎028・656・7111
http://www.tkf.co.jp/

オリオンコンピュータ(株)

代表取締役
石川（いしかわ） 尚子（ひさこ） 氏

「オンライン化が一気に加速。この流れはもう止まらないでしょう」

宇都宮で起業し23年間IT教育に携わってきた。昨年は美容室・ビューティアトリエとコラボして、2回の「オンラインフェス」を開催した。健康、美容、生き方から、会員制交流サイト（SNS）やHPのハウツーなど幅広い話題を、10人の講師がZoomで配信。視聴料は3300円、この企画が話題を博した。「対面授業もオンライン化が進み、海外の教室でも活用しています。誰でもどこでも勉強ができる時代になった」と言う。

そのノウハウやカリキュラムをコロナ禍の2年間で積み上げてきた。「子育てや親の介護のために離職した人が、空いた時間に勉強できます。そのスキルを生かし、秘書や事務の仕事は在宅でこなせる内容ということで、就業のチャンスも増えると考えています」。人生100年時代、70歳から100歳まで働けるスキルを、現役のうちからオンラインを活用して身に付けることを提案する。

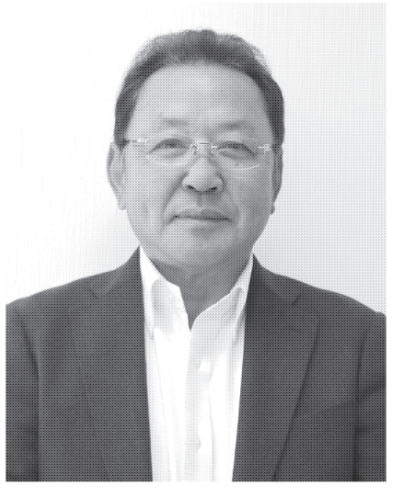
時流の変化を追い風に

パソコン初心者から資格取得、再就職のための職業訓練、外国人向けのIT専門学校など、幅広いニーズに応える。外国人留学生が日本に渡航しやすくするため、東南アジアに5カ所の拠点を作る計画で、すでにスリランカでは2020年に開校。ミャンマー、インドネシア、フィリピン、ベトナムなどでも開校準備中だ。「日本は治安が良く安心して留学でき、住居費が安く住みやすい本県は人気です。また、当校は就職率がいいという口コミで選ばれています」

複数の試験運営会社の委託を受け、テストセンターも運営。栃木県3カ所、埼玉県3カ所、山形県1カ所に会場があり、損害保険代理店試験、証券外務員試験、生命保険試験、TOEFL、ITパスポートなどを実施している。定期的に更新が必要な資格もあり、安定した事業収益になっている。「しっかりと基盤を持ちながら、時代の変化に合わせて新しいことに挑戦していく。10始めたうち1つ成功すれば御の字です」

ORION

〒320-0851　宇都宮市鶴田町 2561-2
☎028・614・4770



(株)関東フーズ

代表取締役社長
益子（ましこ） 和弘（かずひろ） 氏

「昨年はコロナ禍で〝ミートショック〟という事態が起きて、まさにトリプルパンチを受けました」。牛、豚、鶏ともに、輸入品の入荷が減少したうえに、急激な価格の高騰で国内相場もはね上がった。「仕入れ価格だけでなく、燃料代や光熱費、包材などの値上がりも相次ぎ、売れば売るほど赤字になってしまうという状況に追い込まれました」

しかし、地元で総合食肉卸売業として35年の歴史を持ち、取引先と築いてきた信頼という絆がある。「コロナ禍の大変な状況で、値上げをお願いするのは心苦しかったのですが、お客様がよく状況を理解して、快く応じてくださった」という。

那珂川町から次なる発展

「今日発注すれば、その店に合わせた商品をパッケージして、価格シールを貼った状態で翌日納品します。お店では売り場にそれを並べるだけ。素早く柔軟に対応できるのが、うちの強みです」

主要商品は、那須にある敷島ファームとJETファームで育てた牛肉、県産の豚肉さくらポーク、同社のブランド〝那須どりん〟と、いずれもこだわりの地元産。販路は北関東を中心に量販店・飲食店・ホテル・レジャー施設・ゴルフ場・学校給食・産業給食・病院など。多様な取引先を持っていることがリスクの分散になった。「居酒屋さんが営業を控えていたため、2カ月は焼き鳥用の肉の扱いがゼロでした。それでも量販店や、ゴルフ場の販売が好調だったので、売り上げを伸ばすことができました」

今年は作業効率などを改善し、生産性を上げるために工場の改装を計画。また、本社工場から100メートルほどの距離にある、大内川と武茂川の合流地点の土地約1650平方メートルを購入。遊具を置き川遊びもできるよう整備して、地域の人々に憩いの場を提供する。「子どものころにふるさとの山や川で体を動かして遊んだ記憶は、いつまでも楽しい思い出として残ります。那珂川町の雇用を促進し、子育て世代にとって魅力ある町にしたい」と目を輝かせる。

株式会社関東フーズ

〒324-0608　那須郡那珂川町健武2971
☎0287・92・4130

(株)アオキシンテック

代表取締役
青木（あおき） 圭太（けいた） 氏

自動車・航空・食品・容器メーカーはじめ、さまざまな産業の自動化装置を堅実に手掛けてきた。2020年3月、創業から30年を機に青木製作所から社名を変更し、「共生型ものづくり産業に挑む」をキーワードに、社会課題を解決していくことをテーマとして事業活動を推進している。

自社のものづくりの技術だけに頼るのではなく、パートナー企業と知識の融合体をつくり、社会の課題解決に臨んでいく。「新たなビジネスの創出活動やエコシステムを拡大し、さらなる成長へと、会社と社員全員を導きたい。技術力向上のために、私たちは継承と革新を絶やしません」と決意をにじませる。

絶やさない継承と革新

昨年は、自動車・航空の大幅な仕事の減少により、食品やベンチャー系の新しい顧客創出に奔走した一年だった。「厳しさのおかげにより、経営体質の見直しや強化を行うことができた貴重な年になりました」とこれまでに経験がなかった激動の一年を振り返った。昨年、養豚経営システム関連のEco—Pork（エコ・ポーク）＝東京都墨田区＝と業務提携。新たな養豚マーケットの開拓に向け、生産性の高い養豚システムの提供を目指している。

近年の業界を取り巻く情勢や環境については、半導体不足や大手自動車メーカーのEV（電気自動車）シフト加速の影響を受け、メインの事業構造が変革してきているとみる。ものづくりを取り巻く環境も、コスト削減の末、中国などの単価の安い部品を多くのメーカーに求められるようになってきた。

新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きつつある今年は、「既存事業に甘んじることなく、ベンチャー関連を強化し、自社製品と呼べるものの創出をチームで行っていきたい」と事業拡大に力を注ぐ。具体的には、ドローン事業への参入を進めていく。まずは、地元の真岡市内にドローン教習所を開設して、実績を積む予定だ。

AOKI SYMTECH

〒321-4367　真岡市鬼怒ヶ丘 1-15-10
☎0285・80・1361

クレハ合繊(株)

代表取締役社長
平野（ひらの） 政弘（まさひろ） 氏

独創的な製品を数多く創出するクレハのグループ企業として、多彩な繊維製品の製造販売と、射出成形品の製造販売を事業の2本柱に据える。

繊維関連の主力製品であるレジャー用釣り糸の「シーガー」は世界中の釣り人に親しまれている。新型コロナウイルス感染拡大を回避したアウトドア志向で順調な伸びを見せる中、昨年、発売50周年を迎えた。それを記念し、新商品を携えたキャンペーンを国内はもとより、米国や中国でも実施した。「中でも、米国市場でのビギナー層向けに開発した『Basix』は、同国の釣具関連の最大の展示会で、釣糸部門の新製品最高賞を受賞しました」。この高評価に伴い想定以上の注文が舞い込んでいる状況だが、昨年から稼働した省力化新規設備をさらに増強して対応を進めている。

技術を活かし新分野へ

緊急事態宣言の解除に伴い、この後の消費者の動向は不透明だ。そのため「コロナ禍を機に釣りを始めた初心者の方も増えたので、釣り場のマナーを業界団体とともに啓蒙し、より良い環境づくりに取り組みたい」と意欲を見せる。

一方の成形事業は、年間を通して半導体製造装置市場や工作機械市場向け製品の生産と販売が好調だった。時間や人材、原料などさまざまなものが不足する中、従業員の創意工夫で生産能力を向上させ、旺盛な需要に対応することに成功した。

今年は産業用途でPPS樹脂（ポリフェニレンサルファイド）糸の新分野での採用が始まる。生産技術をブラッシュアップしながら、本格的に販売を拡大していく予定。また、釣り糸で培った技術を活用し、医療分野への参入も開始する。「未開拓の分野になりますが、親会社のクレハが持つ知見を活用し、将来的に新たな事業の柱にすることを目指します」

2023年、創業60周年を迎える。ワークライフバランスを促進し、また福利厚生面の充実を図り、従業員の士気も高めながら業務にまい進する。

クレハ合繊株式会社

〒321-0223　壬生町元町1-63
☎0282・82・2111